

国際ワークショップ

# ヨーロッパ人類学の地平

## The Anthropology of Europe and its Extending Horizons

【日時】2011年1月29日(土) 10:30~18:00

【場所】国立民族学博物館第4セミナー室 (定員約80名)

【使用言語】英語 (同時通訳なし)

事前申し込み必要 [euro-anthro@idc.minpaku.ac.jp](mailto:euro-anthro@idc.minpaku.ac.jp) (国際ワークショップ担当)

【主催】国立民族学博物館 【共催】早稲田文化人類学会

National Museum of Ethnology, Osaka co-sponsored by Waseda Society of Cultural Anthropology

### ■ 基調講演

Jeremy Boissevain (アムステルダム大学・名誉教授)

“The Extending Horizons of Rural Malta: 1960-2010”

● コメント 宇田川妙子 (国立民族学博物館)・北村 暁夫 (日本女子大学)

### ■ 研究発表

Yuko Shioji 塩路 有子 (阪南大学)

“An Anthropological Study of Charities: Social Activities and a Change of Community in the English Countryside”

Hiroko Takenaka 竹中 宏子 (早稲田大学)

“Analysis of *Le Sociel* from a Perspective of Individual: A Case Study of Patrimonialization in Galicia, Spain”

Erika Takahashi 高橋絵里香 (学振PD/国立民族学博物館)

“Halfway down to Solitude: Ageing as the Process of Engagement/Disengagement through Social Welfare in Finland”

Osamu Nakagawa 中川 理 (大阪大学)

“The Morality of Illegal Practice: French Farmers’ Conceptions of Globalization”

### ● パネル

石川 真作 (京都文教大学・研究員)

藤原久仁子 (大阪大学・研究員)

植村 清加 (東京国際大学)

三浦 敦 (埼玉大学)

大岡 頼光 (中京大学)

渡辺 公三 (立命館大学)

田中 英資 (青山学院女子短期大学・非常勤講師)

Mohacsi, Gergely (慶応義塾大学・研究員)

Joy Hendry (オックスフォードブルックス大学・名誉教授)

● コーディネーター 森 明子 (国立民族学博物館)

ヨーロッパ人類学は20世紀末から形をなしてきた研究領域である。本ワークショップは、ヨーロッパ人類学を現代人類学の一領野として位置付け、その可能性と課題を検討する。ヨーロッパ人類学の形成期の研究を担ったボワセベン教授（アムステルダム大学名誉教授）による基調講演につづいて、国立民族学博物館共同研究「ソーシャル概念の再検討」（2006年10月～2010年3月）の議論を公開する。

10:30	挨拶 須藤 健一（国立民族学博物館館長）
10:35	趣旨説明 森 明子（国立民族学博物館）
10:45	基調講演 Jeremy Boissevain（アムステルダム大学名誉教授） The Extending Horizons of Rural Malta: 1960-2010
11:40	質疑応答 コメント 宇田川妙子（国立民族学博物館）・北村 暁夫（日本女子大学）
12:20~13:30	休憩
13:30~15:00	研究発表1 塩路 有子（阪南大学） 研究発表2 竹中 宏子（早稲田大学） 討論
15:10~16:40	研究発表3 高橋絵里香（学振PD / 国立民族学博物館） 研究発表4 中川 理（大阪大学） 討論
16:50~18:00	総合討論 コメント Mohacci, Gergely（慶応義塾大学・研究員）・渡辺 公三（立命館大学）

### Jeremy Boissevain（基調講演）

アムステルダム大学・名誉教授。主にマルタ島など地中海島嶼部を対象に調査を続ける、地中海人類学・ヨーロッパ人類学の草分けの研究者。ソーシャル・ネットワーク論の先駆的研究者でもある。翻訳書に『友達の友達』（1986）、『ヨーロッパ儀礼の復活（仮）』（近刊）。

### 竹中 宏子

早稲田大学・人間科学学術院・准教授。スペインの文化遺産に関する人類学。『La Fiesta en la Ciudad : Antropología de la Fiesta de San Lorenzo en Huesca』（2003）、『集う—人間関係のなかで生きる』（2010）など。

### 中川 理

大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・特任講師。フランスの経済人類学。「不確実性のゆくえ：フランスにおける連帯経済の事例を通して」（2009）、『社会をとらえなおす想像力：フランス・プロヴァンス地方の農民の事例』（近刊）など。

### 塩路 有子

阪南大学・国際観光学部・教授。イギリスの観光人類学。『英国カントリーサイドの民族誌：イングリッシュネスの創造と文化遺産』（2003）、『ウチとトノ境界意識と『よりよい暮らし』の実現』（2009）など。

### 高橋絵里香

日本学術振興会特別研究員 / 国立民族学博物館。フィンランドの老年人類学。「自立のストラテジー：フィンランドの独居高齢者と在宅介護システムにみる個人・社会・福祉」（2008）、『福祉（社会）と人類学：二十世紀福祉思想にみるホリズム』（2009）など。

### 森 明子（コーディネーター）

国立民族学博物館・教授。ベルリン、大都市の人類学。『土地を読みかえる家族—オーストリア、ケルンテンの歴史民族誌』（1999）、『ヨーロッパ人類学—近代再編の現場から』（2004）など。

#### 交通のご案内

\*国立民族学博物館（みんぱく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

#### ●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分（国際ワークショップに参加される方は、参加証を自然文化園ゲート窓口でご呈示くだされば無料で通行できます。）  
「公園東口駅」下車徒歩約15分（「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。）

#### ●バス

（近鉄バス）（阪大本部前行き）阪急茨木市駅 / JR茨木駅発「日本庭園前」下車、徒歩約15分  
（阪急バス）（万博記念公園駅経由千里中央行き）

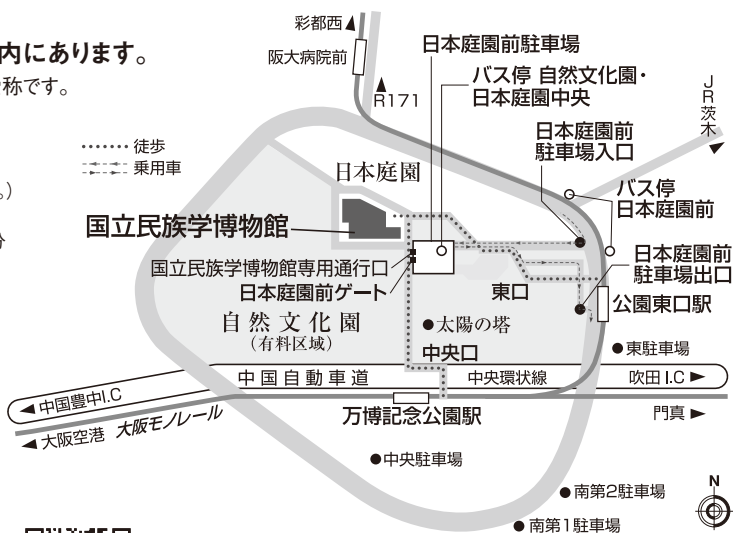
阪急茨木市駅 / JR茨木駅発「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

#### ●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

#### ●自動車

駐車施設が無いので「みんぱく」への車の乗り入れはできません。  
万博記念公園の駐車場（有料）をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分  
\*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。



お問い合わせ先 国際ワークショップ担当  
E-mail : euro-anthro@idc.minpaku.ac.jp  
国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号  
http://www.minpaku.ac.jp/

みんぱく  
携帯  
サイト



国立民族学博物館